

「あいさつ・清掃・ゴミ拾い」で「人間力」を磨こう

『耕人塾』では実践事項を「あいさつ・清掃・ゴミ拾い」としています。それをどのように実践していけば「人間力」磨くことにつながるのかを考えてみたいと思います。

○「あいさつ」について

私は小さい頃、人見知りするところがあり、あいさつするのがとても苦手で、「人は多くの人からお世話になっているのだから、会った人には必ずあいさつするように」と母にいつも言われていました。小学生の頃、登校途中で知らない人にあいさつしたら「いい子だねと褒められて、とてもうれしかったことを覚えています。ゴミ出しに行ったとき、近所の方に「おはようございます」とあいさつしたら「今日も暑いですね」という優しい声が返ってきて、とても爽やかな気分になりました。あいさつは人の心と心をつなぐ架け橋になるのですね。どのようにあいさつをしたら相手の心に響くかを考えて実践することが大切なのだと思います。

○「清掃」について

子どもの頃、借りてきた耕耘機を洗うよう父に頼まれて渋々洗っていたら「借りたものは借りた時よりきれいにして返すもんだ」と厳しく叱られたことがあります。きれいにして返すことは感謝を形に表すことでもあり、とても大切なことなのだと気づかされました。石巻専修大学は廊下や教室はいつもきれいでゴミ一つ落ちていません。一所懸命掃除をしてくれている人たちのお陰です。そのことを講義で取り上げたら、机の上をきれいにしてから帰る学生が増えました。『耕人塾』でも会場を借用して活動していますが、塾生や教学委員が協力して清掃している姿に感動します。感謝の気持ちを込めて清掃することが大切なのだと思います。

○「ゴミ拾い」について

30歳代の頃、荒れた学校を何とか立て直したいという思いから朝のゴミ拾いを始めたら、先生方や生徒たちも一緒にゴミ拾いをしてくれるようになりました。ゴミ拾いの輪が広がって学校がきれいになると生徒たちの表情が明るくなり生活が落ち着いてきました。ゴミを拾うことが他人への思いやりや優しさにつながっていったのだと思います。ゴミを拾うということは奉仕の心を形に表すことですが、喜んでさりげなくゴミ拾いをするようになりたいですね。

「あいさつ・清掃・ゴミ拾い」をどのような気持ちでどのようにやるかが「人間力」を磨く鍵になるのではないかと思います。「当たり前のことを素晴らしくやる」という言葉を『耕人塾』で聞いたことがあります。あなたはどんな気持ちでどのように実践していきますか？

「自分にできることを考える」(河北新報「声の交差点」から)

7/26の仙台二華中3年石井萌葉(ほのか)さんの文章を紹介します。

「テレビで先日、ある少年の行動について特集していた。その少年は生まれつき、発達が遅く、周りの子どもが容易にできることも、その少年にとっては難しいと感じてしまっていた。その少年はある日、身寄りのない犬が増えてきている現状を憂えて、自分にもできることがあるのではないかと考えた。その結果、新しい飼い主が見つかるような犬たちのためにリボンを縫うようになった。そのおかげで新しい飼い主ができた犬が増えたという。そして、その少年は今もリボンを縫い続けているという。(略)自分のやるべきことから目をそらさず、自分に何かできることはないかと積極的に考える。私はその少年の生き方から、自分が役に立てることを考える大切さを改めて学んだ。」石井さんの文章を読みながら私にできることは何かと考えています。